

重症集中ケア認定看護師会たより

発行 2006 年 1 月

発行人：杉澤 栄

編集・広報担当：楠・米山・境野

新年明けましておめでとうございます！！

厳しい寒さが続き、暖かい春の季節が待ち遠しい季節となりました。新年を迎え、会員の皆様におきましては、気持ちも新たにますますのご活躍のことと思います。

今年度、最後の会報誌の内容は、定例会開催報告です。今年度の定例会は、昨年度に引き続き（平成 17 年）1 日形式で関東・関西の定例会を開催いたしました。

第1回 関東定例会レポート

日時：2005 年 9 月 11 日（日） 9:30～16:30

会場：社団法人 日本看護協会 JNA ホール

参加者：午前の部・重症集中ケア認定看護師対象・・・38 名

午後の部・すべての看護師対象・・・11 名

<午前の部>

テーマは、昨年度の定例会アンケートの結果、教育やコンサルテーションに関する要望があったことから「コンサルテーション」をテーマに講義・グループワークを行いました。はじめに、神奈川県立保健福祉大学・実践教育センターで急性期重症者支援課程の教育担当である與良登美代先生より「弱点克服－認定看護師が行うコンサルテーション役割」というテーマで講義をいただきました。講義は、多くの理論を織り交ぜながらコンサルテーションに必要な能力やコーチングについて、またカウンセリングやティーチングとの相違についての説明がありました。講義を受けて、4～5 名ずつのグループに分かれ、チューターのサポートを得ながら「それぞれのコンサルテーション活動」についてグループワークを行いました。認定看護師の行うコンサルテーションとはどのようなものか、また組織で活動していくために、どのような課題があるかなどを話し合いました。

<午後の部>

急性期での疼痛コントロールは重要であり、チームとして取り組む施設もあることから、クリティカルケアにおける鎮痛をテーマに講義・シンポジウムの形式で行われました。講義は、「クリティカルケア領域での鎮痛を考える」というテーマで山梨大学医学部 麻酔科の飯嶋哲也先生をお招きしました。飯嶋先生の施設では、術後の疼痛コントロールのため、電動式 PCA ポンプが導入さ



れており、予防的投与を行うことで術後合併症（イレウス、無気肺等）の減少という結果が得られているとのことでした。また、薬剤部の協力を得、業務上のストレスがない麻薬使用体制が可能となっていました。急性痛のメカニズムと、鎮痛薬の特徴・身体への影響、PCA の利点や欠点について解説がありました。シンポジウムでは、3名の重症集中ケア認定看護師の皆さんから急性期の痛みの対処について、各施設での取り組みが報告されました。

いずれの報告も、患者の痛みに対する反応・訴えに向きあい、看護師同士で、また他職種との積極的な連携から、患者にとって効果的な介入が実現できた事例でした。

新しい体制・方法の導入や意識改革には、時間や技術・工夫などが必要であると実感するとともに、効果が得られたときの達成感や自信、ケアの質の向上などにつながることもあるため、小さな気付きや医療チーム間のコミュニケーションが重要であることがわかりました。会場からは、痛みへの対処についての多くの質問があり、非薬物療法による痛みの閾値を上げるという精神的要因の検討についてのディスカッションが活発に行われていました。

鎮痛に関しては、さまざまな問題を抱えている施設が多く、解決策としては、施設ごとの特色や人的資源・協力体制を検討し、実現可能な方法を選択しながら、目標を達成していくことが大切であると感じました。

今回の講義は、鎮痛に対する問題点が浮き彫りとなり、各施設の新たな取り組みのヒントがつかめた有意義な時間だったと思います。



第2回 関西定例会レポート

日時：平成17年11月13日（10:00～16:00）

場所：田附興風会医学研究所北野病院内きたのホール

参加者：午前の部・38名（認定看護師対象）

午後の部・65名（すべての看護師対象）

【午前の部】

名古屋大学医学部附属救急部集中治療部でご活躍されている福岡敏雄先生を講師にお招きし、「エビデンスをどう現場に活かすか—文献クリティークの実例—」をテーマに先生からご提示いただいたエビデンスレベルの高い急性呼吸障害についての論文と課題シナリオをもとに、グループディスカッションし、先生からコメントや解説をいただきながら進められました。まず、EBNの5つのステップについての解説をしていただきました。ステップ1では具体的な症例や状況から取り組む課題を経験する「問題の定式化」、ステップ2では課題にあった情報源が選択できる「情報検索」、ステップ3では、情報の妥当性・結果の意味・適用性の評価となる「情報の吟味」、ステップ4では課題に対して必要な方策を考える「判断の適用・実施」、ステップ5では、一連の作業を振り返る「判断の評価」が重要であることを学びました。グループディスカッションでは、EBNのステップ1とステップ3にあたる部分を体験しました。同じシナリオに関わらず、多くの視点で考えることができました。グループメンバーで経験・現状などディスカッションをすることで、日ごろの現場での問題を振り返ることができました。ディスカッションした内容を発表しあい、福岡先生から解説をいただきました。その解説はとても分かり易いもので、学びになりました。先生から、最後のまとめとして、「質の高い研究と質の低い研究の違いとそれを見極める意義」についてのお話がありました。また、現場での判断がよりよくしたいという意志・使命感が原動力となることを伺い、今後の活動の意欲に繋がる有意義な時間となりました。



【午後の部】

昨年の会員アンケートから、「集中治療領域での終末期看護」を学びたいという要望が多かったことから、「クリティカルケアにおける終末期看護」についての講演・シンポジウムを行いました。

講演は、りんくう総合医療センター市立泉佐野病院でクリティカルケア看護専門看護師としてご活躍されている北村愛子さんをお招きしました。終末期における患者・家族に関わった体験からの学びや看護師としてのジレンマなど現場に密着した貴重な体験を伺うことができました。

シンポジウムでは、3名のシンポジストによる各施設での終末期看護の取り組みについての発表がありました。臨死的脳死状態の患者の看護、家族へのケアプロセス、患者・家族・医師の間に立つ看護師への支援など、普段医療の発展により高度医療が提供されている中、「回復できない患者に私たち看護師に何を求められているか」を話し合う機会となりました。ディスカッションでは、現場での終末期看護においての意見交換が行われました。患者・家族と向き合うことが重要であると同時に、関わる看護師に対しての支援も忘れてはならないというお話を聴くことができました。日々の看護では、ジレンマや悩みを抱えている看護師が多く、このシンポジウムは現状を振り返る機会となりました。

関東・関西定例会には多くの皆様に参加していただき、有意義な会を開催することができました。
ありがとうございました。

重症集中ケア認定看護師会 HPニュース

2月1日よりホームページがリニューアルしました。情報交換の場に留まらず、実践力の向上のため、文献紹介を加えて内容も充実しました。会員登録をして頂き、重症集中ケア認定看護師会の活動に関してのご意見をホームページにお寄せいただければ幸いです。重症集中ケア認定看護師会：<http://www.icu-cen.jp/>

編集後記

今年度も会員の皆様の声を大切にし、より興味を持てる内容広報活動を考えています。是非、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

お問い合わせは、ホームページの広報宛にご連絡下さい。

今年もよろしくお願い致します。

—重症集中ケア認定看護師会役員一同—